



こんにちは  
教育委員です



発行：教育委員の会  
〒049-4393 今金町字今金48-1  
：0137-82-3488【50】H20.3.24  
E-mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

## 教育委員だよりが“50号”

平成16年(2004年)6月に第1号が「こんにちは、教育長室です。」がスタート。

更に、開かれた教育委員会は、教育委員自らが学び、情報発信をすることを目指し、教育委員の手による「こんにちは教育委員です。」が、同年10月に新たなスタートをいたしました。早いもので、3年5ヶ月が過ぎ、増刊号も含め今月で50号を迎えました。

今後も、教育委員をはじめ、事務局が一体となり本町の教育推進に努めてまいります。

## 神丘小学校が109年の歴史に幕

神丘小学校で、2月24日(日)150人が出席し、109年の歴史に感謝する閉校式とお別れ会が開催されました。統合の決定をしてからわずか4ヶ月でしたが、児童は勿論ですが、教職員、保護者、自治会、教育委員会が一体となり準備を進めてきました。



式典では、林校長の式辞の後、全児童9人一人一人による呼びかけが行われ、学校の思い出や感謝の気持ちが立派に発表され、会場から大きな拍手が贈られました。

4月からは、今金小学校の児童となるため、27日には、スクールバスの登下校乗車体験や今金小学校のそれぞれの学年クラスに入っの授業や給食などの学校体験も実施されました。



多くの思い出を刻み、多くの皆様に育てられた神丘小学校は、「ふるさとに立ち、ふるさとを学ぶ学校」「ふるさとの学舎」であったにちがいあ

りません。長きに渡る歴史の中で子ども達の教育に多大のご指導とご厚情をいただいた皆様に心より感謝を申し上げます。

## 『今金町の教育を語る夕べ』

～今金町教育委員OB、現職委員交流のつどい～  
去る、2月23日(土)、オープンほやほやのホテルいまかねを会場に「今金町の教育を語る夕べ」が開催されました。懇談の中では、OBからは、「今金中学校の統合問題」、「今金高等養護学校の誘致運動から決定までの経過」、「火事による2校の消失」、「国旗・国歌等をめぐる教職員組合との対応」など当時の苦労話や今日的な問題として檜山教育局の存続問題、学校教育を取り巻く環境など多くの話題で意見交換が行われ、懐かしさとともに今後の今金町の教育に対する大きな激励と示唆をいただく機会となりました。



## 第1回今金町定例町議会開催

去る、3月11日、第1回定例町議会が開催され「平成20年度今金町教育行政執行方針」を述べさせていただきました。学校教育・社会教育の重点施策は、次の16項目を中心に推進してまいります。



### 学校教育分野

1. 教職員の指導能力の向上
2. 学校配置と教育環境の整備
3. 特別支援教育の推進
4. 児童・生徒指導の充実
5. 国際理解教育の推進
6. 学校給食の充実
7. 健康・安全に関する指導の推進
8. 幼稚園教育の推進

### 社会教育分野

1. 家庭や地域の教育力の充実
2. 青少年の健全育成活動の推進
3. 高齢者の社会教育活動の推進と地域支援
4. 芸術文化活動の推進
5. 子ども読書活動の推進
6. 国際交流の推進
7. 生涯スポーツの振興
8. 文化財保護の推進

## 委員寄稿「歳時記」



今月は、田中教育委員です。

今年、'国際ポテト年'

そして'男爵薯 栽培100年'

田中 稔

陽ざし軟らかく、道端の法面にふきのとうが芽吹く3月下旬、馬鈴薯栽培農家は冬季間凍結しない様に土で厚く覆った薯穴から種薯を掘り出し（近年は倉庫貯蔵が増えました）、庭先やビニールハウスで、欲光催芽と云う種薯の日向ぼっこの作業をします。4月、畑に播き付けされる種薯が元気な芽を出すための作業です。名産品、日本一の「今金男爵」、今年の栽培作業が始まります。

さて、今年「国際ポテト年」です。国際年とは、国連に加盟する各国が1年を通じ、共通でひとつの課題に取り組むもので、近年では2004年が「国際コメ年」でした。

2008年「国際ポテト年」は、ジャガイモの原産地国ペルーが提案、世界の各国や国際機関によるシンポジウム、技術展覧会など種々の催しが開かれるようです。

ジャガイモが持つ栄養の豊かさや食料確保に果たす役割などについて、認識を高める年となるでしょう。

世界4大作物（トウモロコシ、小麦、米、ジャガイモ）のひとつ、また、世界の主食第1位のジャガイモ（2位コメ、3位小麦、4位バナナ）。人類の祖先が南米大陸の高地（標高2500～3500M）に移動し出会ったのが、ジャガイモの祖先種です。安定的な食料が確保出来てインカ帝国の繁栄を支えました。欧州に渡ってからは、多くの戦乱の中、地上部が荒らされても寒くても良く育ち、収穫できる作物として栽培が広がりました。

ジャガイモは、でんぷんやビタミンCを含み、飢饉を救いおなかを満たして来た優良な食料です。近年は多種多様な料理が工夫されており、品種によりアントシアニンなどの成分も含ま

れ、インフルエンザの予防への利用などの研究も進められているそうです。

世界に7,500程の品種があり、中国、ロシア、インド、アメリカ、東ヨーロッパで生産が多く、世界の生産量は2005年3億3,210万トン（消費量はアジアより欧米の方が多い）。日本では、明治維新以降に作付けが本格的に広まり、2006年全国の作付け面積は、86,600ha、生産量264万3千トン程で、北海道が面積、量とも8割を占めています。

2007年、今金町の作付けは490ha、生産量は約16,500トンです。

また、今年、土佐出身の川田龍吉男爵（かわだりょうきち、1856～1951、英国に留学し造船技術を学び横浜ドッグ、函館ドッグを経営した実業家）が、1908年七飯の農場で英国から輸入したジャガイモの栽培を始めてから百年。これが後に「男爵薯」として全国に広まりました。（詳しくは、北斗市当別の男爵資料館を訪ねて下さい）

今金は男爵薯の産地「今金男爵」として日本一の評価を得て居ります。長年に亘り、作付け品種を「男爵」に絞り、栽培技術の向上や流通対策などに先輩諸氏、各関係機関、生産者がたゆまぬ努力をして来た賜物と思います。6月下旬から畑地帯に広がる薄紫色の男爵の花、景観も地域の大きな財産です。栽培体験や料理でおおいに利用し、町民あげて、多くの機会を通じて、一層「今金男爵」を守り、育て、親しみたいものです。

